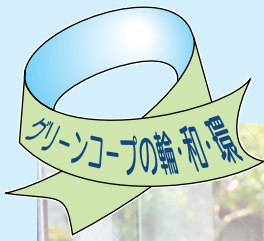




共生の時代

'10
10月

●発行:グリーンコープ共同理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号 カーニープレイス博多4階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876



グリーンコープ生協さが監事

後藤 契子 さん

けい こ

「入」 工的なものは嫌い。まして生き物の生命を脅かす原子力発電なんて...と首を振る後藤さん。2009年に開催された「5・10さがストップ! プルサーマル人文字フェスタ」の実行委員メンバーだった。催しの企画から準備、進行まで、すべてに関わった。当日は原発のメッセージを込めたライブや、ゲスト講師によるリレートークが行われ、会場になった公園には、エコに関するワークショップが立ち並んだ。一番特徴的だったのが1500人規模の「NOMOX」の人文字だ。「反対運動やデモ行進では、一般の市民が参加しにくい雰囲気があると思ひ、明るいフェスティバルに考えました。プルサーマルを知らない人にも興味を持ってもらえるようにね。だから県庁までの行進も「パレードにしたんです」。2ヵ月ほどでこれだけの準備を30人あ

まりのスタッフで行った。困難を極めたが、1人でも多くの人に、原発について考えてもらいたいという一心で奔走した。

後藤さんはお寺で生まれ育ち、物心ついた頃から生きる意味、自身のあり方に疑問を抱いていた。哲学や文学書などを愛読し、環境や、生命の尊さ、生命のつながりを意識するようになった。

学生時代に音楽と出会い、歌で表現することに喜びを感じ、「自分がダイレクトに受けたものを、音楽を通して感じてもらいたい」と、自分の「生きる」答えが少し見えてきた。その後は結婚を経て、子育てとお寺の仕事を両立させながら子ども会などの地域活動にも参加していった。2003年から3人のメンバーで音楽活動をはじめた。子どもたちへの読み聞かせ「おはなしTiio」は、「環境問題」や「食の大切さ」、「思いやり」の心、などがテーマ。絵を輝いていた。

「これまでの取り組みで何かを感じてもらえたり、私自身にも出会いから気付きが生まれたり、これが私の役目なのかと思います。そう語る後藤さんの目は生き生きと輝いていた。

プロフィール

熊本県荒尾市に生まれ育つ。現在、佐賀県神埼市の浄土真宗「浄光寺」の住職の妻。夫、3人の娘(京都在住)、夫の母との6人家族。グリーンコープ生協さが組合員

尊い生命を生きていることを感じてほしい

秋の月間 展開中!



この秋ハム・ソーセージが
みんなで利用価格になります

Contents

ホームレス問題を考える 19 絆が人を生かすから...抱擁館の挑戦	2
うちのメーカー・うちの生産者 ⑩ (有)藤岡水産 めうす塩味さば	3
グリーンコープは国産農畜産物にここまでこだわっています	4・5
ストップ再処理 海に空に放射能を捨てないで!	6
共同購入ワーカーズの挑戦 ずっとワーカーとして働きたい	7

びん牛乳、バターブレンドマーガリン、チョコクリームソーダポッキンチューなどグリーンコープの食べものが大好きな孫が小学3年生となり、野球部員となった。全校生徒60人足らずの小さな学校で、部員数も少なく、練習もそこそこに即選手として試合出場おなかを抱えて笑う場面が数多く、終わってみれば16対0の惨敗である。今後どのように成長していくのかとても楽しみにみだ。3月30日、末娘に女の子が誕生した。まだ産まれ

て数ヵ月だが、「おなかがすいた!」「オムツをかえて!」と立派に意思表示をする。語りかけるわけのわからぬ言葉で返事をしてくれる。そして「ニコリほほえむ笑顔は「天使」そのものである。

この小さな子どもたちの将来は?と考える。多種多様な不安が混在する中、少しでも明るい未来へとつなぐ活動の一翼を仲間と共に担っていきたく思う。

グリーンコープ生協くまもと副理事長
佐枝 尚美

※プルトニウムとウランを混合したMOX燃料を一般の原子力発電で使うこと。玄海原発3号機で使用された

ホームレス問題を考える 19

絆が人を生かすから……抱樸館の挑戦

絆は温かいもの。でも痛みを伴う覚悟で関係しなければ真の絆は生まれない

奥田知志さん

社会福祉法人グリーンコープ副理事長。NPO法人北九州ホームレス支援機構理事長。ホームレス支援全国ネットワーク代表



90年代に起こっていた社会構造の変化が、リーマンショック以降急激に経済が悪化したことで、社会の脆弱な部分に一気に露呈してきました。当時派遣村などの状況について、「住まいと職を失った」と表現されましたが、絆を失ったことが一番大きい問題だと思っています。日本社会の困窮には大きく3つあって、①経済的困窮、②身体的困窮、③関係の困窮です。①②についてはこれまで社会保障制度によって補填されている面もありましたが、③は今日的で、より深刻な新たな課題です。若年ホームレス者の問題は関係や絆を失った人々の問題であると言えます。

絆が壊れると、いざという時に助けてくれる人がいないというだけでなく、自分が何者で、何のために生きていくか分からなくなることを意味します。人は他者との関係の中で自分の存在意義を見出すのだと思います。抱樸館福岡の利用者が、北九州の炊き出しに参加したいと申し出ています。「ありがとう」という一言を、絆を求めていると思います。一方通行ではない関係が求

められています。抱樸館をやっていくということは、支える、支えられるという相互性の中で、双方が存在意義を見出していくこと、その積み重ねに挑戦していくことだと思っています。絶対的な受容なくして、人と人との関係、自己表現は成り立ちません。関係性の困窮は、社会的に弱い立場の人だけでなく、全体にあります。絶対的な受容には痛みが伴います。原木をそのまま抱きとめるという意味である「抱樸」に通じるものです。ある意味で傷つく、痛みを伴う覚悟がな

くては人と本当に関わることはできません。一方、これまでの日本では身内の責任論が強く、地域がみんなで見守るような状況で、自分自身も弱かったかという考え方が弱かったかと思えます。そこを越えるものを抱樸館が示していると言えます。グリーンコープはホームレスの人たちと関わる痛みをみんなが背負うこととしたのです。リスクを分かちあっても関係性というところを踏み出したいのだと思います。これは新しい社会の創造です。

2009年4月からはじまったこのシリーズも最終回となります。抱樸館福岡開所から半年を目前に、この取り組みの意味、今後の展望について、行岡理事長、奥田副理事長、青木館長に語っていただきました。

この抱樸館福岡を拠点に、人と人との絆を紡ぐ豊かな第二地域づくりの実践がはじまっています。そして、その取り組みを通して、私たち一人ひとりの組合員が真に支えあい、助けあう関係性を築いていくことを実感していくこととなります。

抱樸館福岡は小さいけれどこれからの日本の希望の灯台になれば

行岡良治さん

社会福祉法人グリーンコープ理事長



ホームレス問題に象徴される現代社会の病理は、近代的価値観の破綻の現れだと思えます。本来、人は関係性の中に生まれ落ちてくる存在です。関係性の中で、人は人として生き、そのパーソナリティを形成していくのです。ですから、人は本来、関係性を共有しており、分りあえる存在なのです。ところが、近代的価値観は、他人を分りあえないブラックボックスのようにとらえました。そして、他人を外在的に改造していかねばならない存在と理解しました。グリーンコープが貫いてきた「連帯」は「無条件にお互いを受け入れていく」ことを意味しています。そ

して、それは近代的価値観を根本的に批判することを意味していました。それは、人は外在的にしか関係できないとする近代的価値観に對して、人は内在的に関係し、分りあひ、連帯できる存在である、ということを実証しようとする闘いを意味していました。私はそして今、世の中は折り返し地点にきているように思います。人と外在的に関係しようとする近代的価値観がこのように破綻し、人が内在的に連帯し、助けあう社会がこれから新しく生まれていく、その折り返し点に、私たちは立っているのです。

その端的な現れこそ、私たちと奥田さんたちとの出会いにほかなりません。グリーンコープはこれまでグリーンコープの中で築いてきた豊かな関係性を外に向かつて、地域に向かつて、表現すべき時を迎えていたのです。抱樸館福岡の建設・開所を検討していく過程や開所式などで見受けられた組合員の微笑みは、そのことを表しています。社会福祉法人の理事長としてとても嬉しく感じました。地域再生の柱として、抱樸館のような地域の拠点がたくさんできていき、ホームレス者に限らず、高齢者や障がい者、子どもたちが希望を持てるような、温かい社会へ向かっていけたらと思います。

抱樸館は関係そのもの。人と人との関係の問題が問われている中でその存在意義は大きい

青木康二さん

抱樸館福岡館長。NPO法人北九州ホームレス支援機構施設事業部長、抱樸館福岡準備室長を経て現職



開所から4カ月、延べ75人の利用者がありました。中には成人前の人もいて、9割程は50代以上であったこれまでのホームレス支援と違うことに戸惑いを隠せません。若年層の利用者と接してきて、ここまで人と人との関係が壊れているのかと驚いています。リーマンショック以降の、仕事がない状況も深刻ですが、親や兄弟もいる若年層で、家族や地域のつながりさえ絶たれてしまっていることに、本質的な問題があるように思います。連帯と抱樸は「無条件でお互いを受け入れる」とい

う点で同じことを言っているといます。スタッフが若い利用者から要望が噴出することを受け止め切れないうすもありません。しかし、「そういう自己表現が許される空間である」と抱樸館が利用者を感じられていることの裏打ちだと、思っています。いろいろと要求や不満を出していた利用者から「スタッフの方とここにいる仲間と出会ったことだけで独りではないと初めて思えました」という手紙ももらいました。利用者自身に問題に気づいてもらいたいと真剣に叱責の言葉を掛けたら「今まで本気で自分を叱ってくれた人はいなかった。これからお父さんと呼ばせてください」と言われました。抱樸館で再生を図ろうとしている人たちがいかにこれまで自分を出せる関係性がないままにいたのか、その問題の根の深さに思い至りました。「人は人との関係なしでは生きられない」。抱樸館で自分をそのまま受け入れてもらえることで、自己表現をはじめた利用者。言ってくれたことを、人と人との関係のはじまるチャンスだと思ひ、受け止めています。そうしたことを通じて抱樸館の意義をスタッフ自身が確認しているような気がします。

うちのメーカー



101 長崎市野母町 (有) 藤岡水産

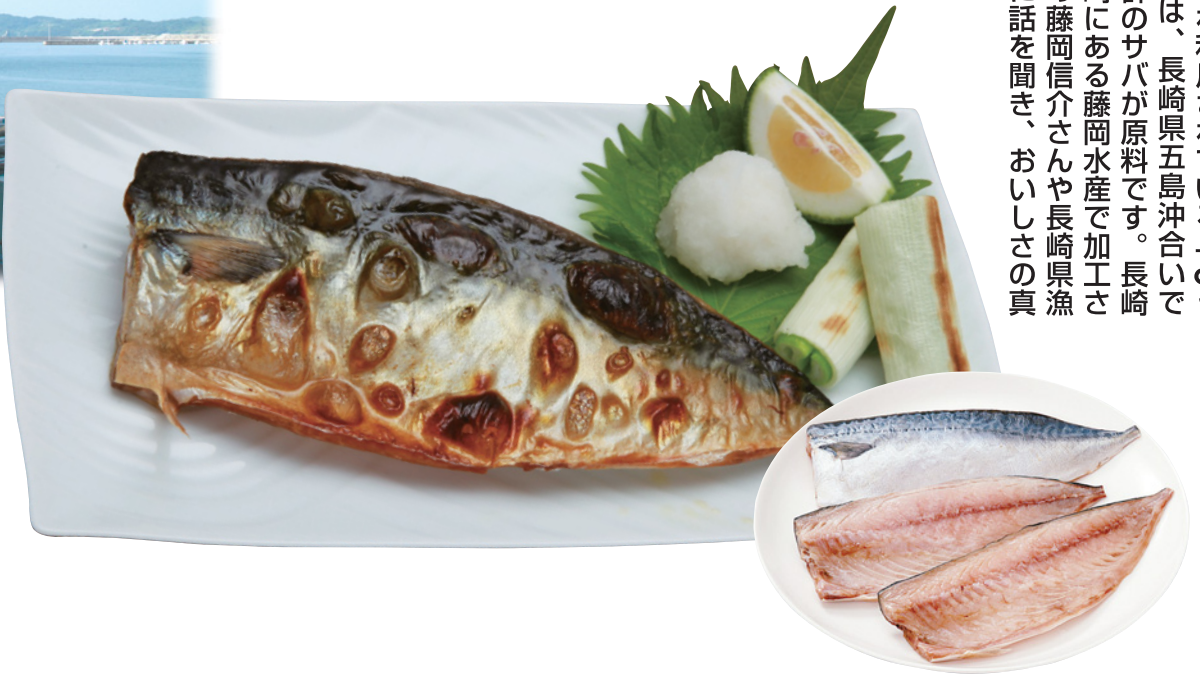
うちの生産者



左端から藤岡さんと従業員のみなさん。前列右端から県漁連野口恭平さん、川尻さん 「新商品の開発には必ず、従業員みんなに試食してもらい意見を聞きます。みな厳しい意見を言いますよ」と藤岡さん

うす塩味さば

長く組合員に愛され利用されている「うす塩味さば」。それは、長崎県五島沖合いで漁獲された鮮度抜群のサバが原料です。長崎半島の突端、野母町にある藤岡水産で加工されています。社長の藤岡信介さんや長崎県漁連の川尻正史さんに話を聞き、おいしさの真髓に迫ります。



藤岡水産は、長崎県漁連の提携工場。グリーンコープとの関係は、長崎県漁連が取引をはじめた1984年頃から。藤岡水産の「うす塩味さば(当時はうす塩さば)」はそのころから20年以上組合員に利用されているロングラン商品だ。

仕入れたサバは冷凍保存され、毎日2400〜3000パックの「うす塩味さば」を作るために必要な量が解凍され、1日半の工程を経て出荷される。できるだけ短期間に組合員の手に届けるため作業は迅速に行われる。「組合員さんはカタログで商品注文し、その信頼を裏切ることのないパッケージの商品を常に作ることを心がけています」と藤岡さんは言う。

そのためには、仕入れからでき上がるまで従業員も藤岡さんも一体となって緊張感のある作業に徹する。7月から新登場したグリーンコープ生協くまもとが単協開発した新商品「長崎県産真さば夕庵干し」長崎県産丸あじ夕庵干し「も藤岡水産の製品だ。夕庵干しは長崎の料亭で出されていた料理がヒントになっている。サバをだし汁やうすくち醤油(チョーコー)・本み

りん(千代の園・清酒(旭鳳酒造)で作ったたれに漬け込み上品な味に仕上げている。「基本になるのは「うす塩味さば」のノウハウです。くまもとのみなさんや県漁連さんと力を合わせてよい商品ができました」と藤岡さんは自信を持っていう。

「グリーンコープさんの商品仕様書(何を使ってどのような工程で製造するかを明記した確認書)の徹底など、私にとってはごく自然に納得できるものです。緊張感を持って誠実に仕事をすれば、まさに商品仕様書通りの品物ができます」。食べもの作りへの藤岡さんの姿勢はまっすぐだ。その

姿勢があつて、高い利用率を維持するよい商品が作り出されている。

このしる酢漬

うす塩味さばの製造工程



グリーンコープで取り扱っている (有) 藤岡水産製品の一部



海の資源を大切に

この間日本の漁業を取り巻く環境は悪化の一途をたどってきている。全国の漁業従事者は2008年には、22万人ほどだという。漁協組合員の半数が60歳以上という現状で後継者も育っていない。長崎県漁連でも同様な状況。1989年には約4万5千人いた組合員が2008年には3万人。加えて温暖化の影響により、自然に納得できるもの、緊張感を持って誠実に仕事をすれば、まさに商品仕様書通りの品物ができます。食べもの作りへの藤岡さんの姿勢はまっすぐだ。その

「海に囲まれた島国である日本にとって、海産物は自然のめぐみ、貴重な食文化の一つです。長崎県で水揚げされる新鮮な近海魚を長崎県漁連では、藤岡水産などの提携工場や長崎県各地の漁協と協力しながらできるだけ多くの人に利用してもらえよう努力しています」と川尻さんは熱心に話す。

国産農畜産物に だわっています

グリーンコープは「子どもたちに安心・安全なものを食べさせたい」という母親たちの願いから生まれ、さまざまな形で「食べもの運動」を展開してきました。設立から22年を迎え、グリーンコープの「食べもの運動」はますます進化しています。これまでの取り組みや、新たな展開について報告します。

「産直」を基礎にはじまった「食べもの運動」

「商品」から「食べもの」へ

1970年代、高度経済成長を続ける日本では、食品は「食べもの」というより、経済効率優先の「商品」としての側面が大きくなっていました。大量生産、広域流通、長期保存させるために添加物が使われ、食品の安全性がなござりにされるようになりました。

そんな中、母親たちは子どもたちの未来のために安心・安全な食べものを手に入れたいと、各地で生協を設立、地域で安全な食べものを共同購入すると同時に、環境問題など社会的課題にも取り組んできました。

「産直」の取り組み

そうして歩んできたいくつかの生協が協同して1988年、グリーンコープとして設立した時、以下を確認しました。生命が軽んじられる時代状況の中で、「生命を大切にしたい」。そのため「食べものを大切にした」。またそのた

め「農業と環境を大切にしたい」。そして、「人間と人間が生活する地域を再生していきたい」。これらを「グリーンコープ運動」として取り組んできました。

「産直」の取り組みは、農畜産物の取引は「産直」というかたちを取りました。グリーンコープの「産直」は、作っている人、生産方法が明らかで、生産者と組合員との交流ができること、はもろろんですが、一番大きな特長は、生産者の側からみても産直提携が実感できるという事です。具体的には、生産者・メーカー

との取引は、生産者・メーカーが継続して再生産できる価格を基礎としています。そのことが私たちが継続して安心・安全な「食べもの」を手に入れることにつながると考えるからです。それによって生産者は安定して農業を続けることができ、後継者も育つことになりま

グリーンコープは「国産」を追求します

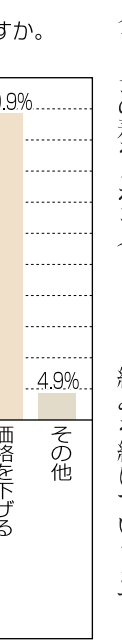
グリーンコープは、一般には輸入商品や輸入原料の加工商品が多いものについても、国産にこだわっています。農畜産物は基本的に産直または国産です。加工食品についても、肉や卵が原料のものは多くが産直または国産原料を使っています。ハム・ソーセージの原料肉は100%産直豚肉です。一般には、食品原料の小麦はほとんどが外国産ですが、グリーンコープが

熊本県でもかつては盛んに栽培されてきました。しかし現在激減しています。グリーンコープは九州の落花産地を再生したいと、生産者を回って呼びかけ、継続・再生産のための生産奨励金の仕組みをつくりました。その結果、20人の生産者が呼びかけに応え、2009年「熊本県産穀付き落花生」が誕生しました。

グリーンコープが日本の農業を応援する取り組みを続けてきたことで、日本全体では農作地が激減する中、グリーンコープの「食べもの」を生産する農地は拡大しています。

かけたことで、約92ha(ヤフードーム18個分)でナタネが作付けされました。2009年には「国産なたねサラダ油」として商品化されました。

2009年秋、これまで



畜産物飼料の国産化への挑戦

日本の穀物飼料の自給率はわずか5%。グリーンコープは、畜産物の飼料を国産に替えていく取り組みに挑戦しています。また世界的には、ここ数年の異常気象、人口急増などにより、食料不足が深刻化しています。特に小麦製品や肉を食べる西欧の食習慣が中国などへ広がった影響や、食用の穀物栽培がバイオ燃料用に転用されたことで、飼料が高騰し、不足する事態が懸念されています。

グリーンコープは、産直畜産物の飼料に少しずつ国産の割合を増やしてきました。2007年「国産穀物を使った産直たまご」の供給を開始、2010年3月からは「産直たまご」の飼料にも5%の国産穀物を使用しています。今後は「産直たまご」や「産直若鶏」の飼料にも10%以上を使用

2008年に実施した「40万人組合員食べものアンケート」では、多くの組合員が国産の食べものを求めていること、そしてグリーンコープの取り組みを支持、期待していることが明らかになりました。そして組合員自身も「できることはやっていきたい」という意思があることが確認できました。

2009年秋から、3団体と協力して「フードマイレージ運動」に取り組み始めてきました。これからはグリーンコープは未来を見据え、「安心」「安全」な食べものが「安定」して手に入られるよう、組合員一人ひとりが協力し、日本の農業を応援すると同時に、生命を守り、環境を守る取り組みを続けていきます。



40万人組合員の方でさらにすすめる「食べもの運動」



福岡県内の大豆畑

グリーンコープは国産をここまで

開発したパンやお菓子、麺類などの原料小麦は国産です。
国産を応援するための生産奨励金

国内での生産が厳しい状況にある農産物生産者には、安定的に継続して生産できるように、また国産を少しでも増やしていけるように組合員が支えていこうと、「生産奨励金」を届けています。ジュース用(加工用)トマトの生産は、加工用トマトの輸入自由化に伴い激減、このままでは国産は手に入らなくなると心配されました。そこで、2006年から作付面積に応じ生産奨励金を生産者に届けています。グリーンコープが商品として使用する加工用トマトは、全国生産量の2%程度に相当します。

落花生も中国産に押され国内産はわずかです。千葉県が国内最大の産地ですが、



産直放牧黒豚の飼育がはじまっています!



放牧は1頭あたり約20坪という広々とした空間で行われています

「もっとグリーンコープらしい黒豚を開発しよう」と、2009年、グリーンコープの飼育基準で育てる産直の黒豚の開発がはじまりました。産直肉生産者である岡山県の「岡山ふたみ牧場」と長崎県の「西岳高原農場」で、母豚の飼育からはじめ、生まれた子豚たちを育てています。もちろんエサはnon-GMOの配合飼料。今後は飼料の国産化を追求し、飼料米に加え産直青果生産者が栽培したさつまいもやトウモロコシ、バレイショ等の発酵飼料も加えていく予定です。

この取り組みはグリーンコープ生協おかやまと西九州(さが、(長崎))の単協開発商品として、組合員が生産者とプロセスを共有しながら、飼育現場の視察などをし、開発をすすめています。

来年春以降、商品として登場する予定です。

カタログGREEN32号より生産奨励金の対象商品に新しいマークが付いています

生産奨励金に込められた思いをより多くの組合員みなさんに伝えたいと、各単協で組合員から募集したデザインの中から、共同体理事会で投票して決めました。組合員の熱い思いを形にしたマークです

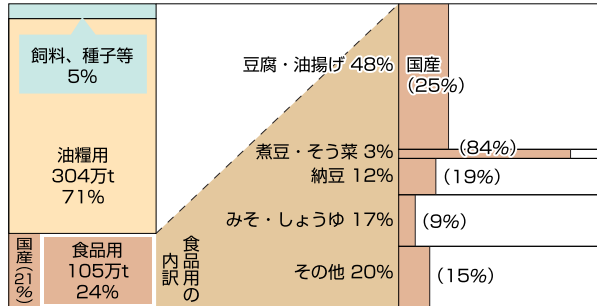


これにより、160トンの外国産大豆が国内産に切り替わったことになり、グリーンコープの「日本の大豆の生産と生産者を守る」取り組みが大きく前進しました。

外国(アメリカ・カナダ)産のnon-GMO(遺伝子組み換えでない)丸大豆を原料としてきたグリーンコープの醤油の原料大豆を、すべて国産丸大豆に切り替えました。日本の大豆の自給率は約5%と大変低く、輸入原料に頼らざるを得ないため、醤油の原料大豆は、大半が外国産の遺伝子組み換え大豆を原料とした搾油後の脱脂加工大豆です。国産丸大豆の醤油はとて貴重なものと言えます。

現在開発に取り組んでいる「産直放牧黒豚」の飼料についても、国産を追求していきます。

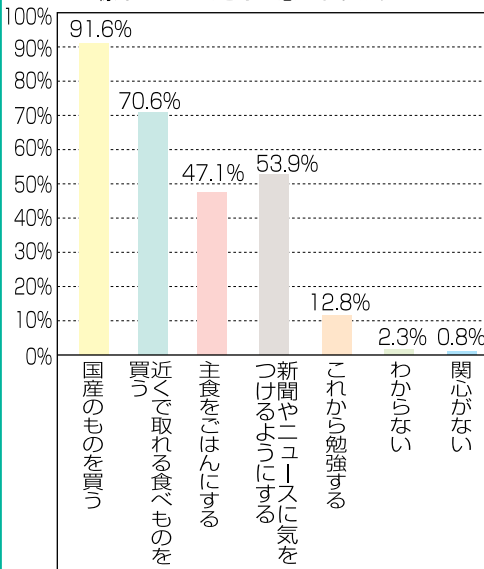
大豆の用途別需要量と自給率(2007年度)



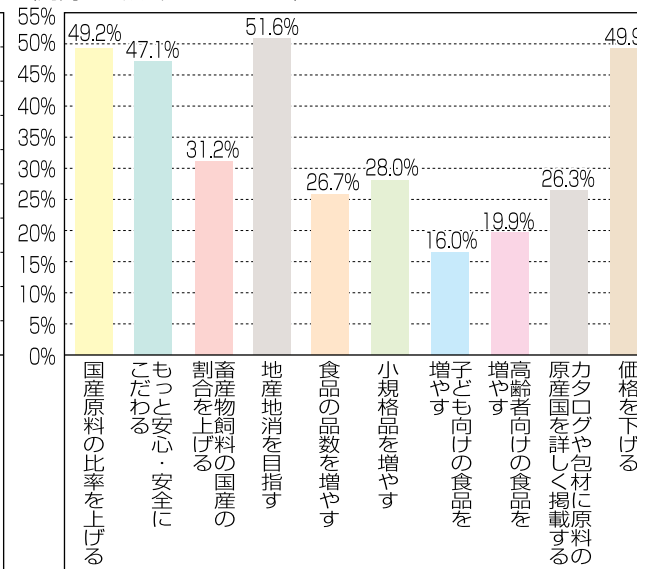
資料：農林水産省作成
注：()内は、用途別大豆の自給率。なお、2008年度の食品用の自給率は25%

40万人組合員食べものアンケートより

(問) 日本の農畜産物を守るために、あなた個人はどのようなことができるとお思いますか。



(問) 今後グリーンコープにもっと取り組んでほしいことは何ですか(両問とも該当のもの全て)



おかやまからの報告

おかやま商品いおし委員会委員長
黒田明穂さん



昨年6月から岡山ふたみ牧場で産直放牧黒豚の試験飼育がはじまり、子豚第一号誕生記念、放牧用の電気柵作りなど、節目ごとに関わっています。6月には理事・委員での第一回試食確認を行い、生産者の愛情たっぷりしかも広々とした放牧で飼われた旨みを味わうことができました。



岡山ふたみ牧場
黒豚担当の松下さん

生産者の声

かわいい♡子豚たちは、のびのびゆったりと元気に育っています。時にはやんちゃに手を焼きますが、とても賢い黒豚たち。ここでしかできないことをいっぱい経験して、きっとみんなの元気の素になってくれると信じています。

昨年7月に母豚3頭からスタートして現在母豚6頭になっています。初めての取り組みでもあり、試行錯誤しながら、日々頑張っています。必要以上に人間が手をかけないような飼育をめざしていきたいと考えています。



西岳高原農場の山本会長夫妻



六ヶ所再処理工場

グリーンコープも呼びかけ団体である『六ヶ所再処理工場』に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク(以下阻止ネット)は、2010年9月4日東京ウィメンズプラザホールにて、六ヶ所再処理工場の稼働中止を求める集会を開催しました。

集会では「放射能自主測定の結果と六ヶ所再処理工場の今」の報告、映画「六ヶ所村通信No.4」の上映や鎌仲ひとみさん、菊川慶子さんの対談がありました。会場には約260人(グリーンコープからは各単協の組合員他13人)が参加しました。

ストップ再処理

海に空に放射能を捨てないで!

無謀な核燃料サイクル計画

エネルギー資源輸入国である日本は、準国産エネルギー資源の確保を名目に使用済み核燃料を再使用する核燃料サイクル計画を1967年に策定。六ヶ所再処理工場は、政策に基づいて作られた使用済み核燃料からプルトニウムやウランを取り出し再利用するための工場だ。2006年3月にアクティブ試験が開始されたが、最終段階のガラス溶融炉などでトラブルが続発している。当初予定されていた本格稼働は2007年。2010年7月時点、稼働の見込みはたっていないにもかかわらず10月に完工と発表された(集会当日、完工は約2年延期という新聞報道)。しかし、フランスなどで再処理されたプルトニウムは大量に日本に戻されており、これを利用してMOX燃料によるプルサーマルや高速増殖炉原型炉「もんじゅ」の運転再開など、核

燃料サイクル計画全体の進捗は加速している。

六ヶ所再処理工場では、1年間で約800トンの使用済み核燃料から約8トンのプルトニウムを分離する計画。その際、原子力発電所が1年間で放出する放射能を1日で放出する。環境や人への影響、海産物や農産物の汚染、施設内で捕捉できるにもかかわらず海中に放出されるクリプトンやトリチウムなどの放射性物質による広範囲な海域の汚染、施設直下に活断層があり、耐震性には大きな不安がある、など六ヶ所再処理工場の問題は大きい。

六ヶ所再処理工場周辺環境調査報告

青森県や日本原燃(株)では、再処理工場周辺の環境調査を行い、測定結果を公表している。これまでの報告で、問題はないとされているが、いくつかの測定結果には再処理工場からの影響が現れている。阻止ネットでは、200

8年度から放射能被害を受ける農・水産の生産者と共に活動するためにも必要なことである、六ヶ所再処理工場周辺の放射能測定を自主的に行っている。2009年度は、アクティブ試験のトラブルで工場の操業はほぼ停止しており、放射能の環境への放出量も少なくなっている。測定核種は、炭素14、トリチウム、プルトニウム、セシウムでいずれも問題のない数値。六ヶ所再処理工場に由来する環境汚染は認められていない。しかし、アクティブ試験を活発に実施していた2008年度の環境調査が公表されつつあり、(財)環境科学技術研究所の報告では、トリチウムや放射性ヨウ素129による環境汚染が確実に起きていることが示されている。この放射性ヨウ素は自然放射線の量に比べて極めて少ないので健康には影響しないとされている。しかし、今後も放射能の放出が続ければ何万年も消えることなく環境中に蓄積され、食品からも検出されるようになることは火を見るより明らか。蓄積された放射能を消すことは不可能だ。

六ヶ所再処理工場がアクティブ試験で2010年4月末現在までに放出した放射能は海洋中に総計2200兆ベクレル、大気中に8京1000兆ベクレル。本格稼働がはじまれば、当然にこの数値をはるかに超える量が放出される。本格稼働の中止を今後も強く求めていく必要がある。



熱心に話を聞く会場いっぱいの参加者



「六ヶ所再処理工場の完工と言われている2年後には、本格稼働を阻止しよう」と閉会の挨拶をするグリーンコープ共同体代表理事田中裕子さん

一人ひとりの行動で、自然エネルギーへの転換を

菊川慶子さん

1990年に六ヶ所村にUターン。以来反核運動に関わる。「花とハーブの里」を主宰し「核然に頼らない村作り」を呼びかけて、活動を続けている



鎌仲ひとみさん

映画「六ヶ所村ラプソディー」、「ミツバチの羽音と地球の回転」の監督。原発問題などを啓発している。明治大学などの非常勤講師

六ヶ所村をオランダのようなチューリップと風車の町にしたいと思って、1992年からまず自分にできるチューリップの栽培をはじめた。六ヶ所再処理工場など原子力産業に頼らず、経済が成り立つ村作りが夢だ。ささやかな地場産業として「花とハーブの里」を主宰し、毎年「チューリップまつり」を開いている。残念ながら今年は春が寒く、チューリップが開かなかつた。全国の人に出資してもらい合同会社でジャム工場の操業を実現することができ、村の人3人に働いてもらうこともできた。

自宅の電気を自然エネルギーで賄いたいと思っている。自分のお金はそうしたことにすべて使いたい。昨年、自然エネルギー学校を開いて手作りのソーラーパネルと小さな風車を作り、常夜灯の電力になっている。今年も第2回自然エネルギー学校を開こうと思っている。手作りのソーラーパネルや小型の風車で発電量を増やしたい。隣が牛も飼っているし、自宅の汲み取り式のトイレなどを利用して、小さなバイオマスプラントも実現できたらなど次々としていきたいことが…。

夢は日本全体が自然エネルギーにシフトしていくこと。自然エネルギー学校に若い人にもっと来てもらいたい。六ヶ所村の問題は、消費者一人ひとりの問題。自分が今できることを考えて欲しい。

外国からは日本はエネルギー政策においては、ガラバゴスと言われている。電力の自由化もすすんでおらず、あたかも自然エネルギー阻止法があるようだ。原子力での電力に反対と言うと、「それじゃあなたは、ロウソクで暮らすの」という反論が必ずある。スウェーデンでは、ほとんどの公共交通機関がバイオガスを使用。そういうところでは家畜の糞尿はエネルギー資源として大きな価値がある。六ヶ所には189基の風力発電用の風車が立っている。この風力発電の電気は東京の新丸ビルの電気エネルギーとして使われている。僻地の自然や暮らしを破壊して都会の電力が賄われている実態を変えていく取り組みも少しずつはじまっている。『10年後には自然エネルギーを扱っていないと企業として生き残っていけない』と仲介した石油会社の関係者も言う。六ヶ所の核燃料施設建設のために毎年約50億円が使用された。その資金は我々の電気代に反映されているのだ。東京都では900億円かけて太陽の光と熱を有効に利用しようという太陽熱エネルギーのプロジェクトを作っている。にもかかわらず、核燃サイクルは推進され、今後原発を14基建設するという政府の方針だ。

自宅のアンペアを点検して、容量を下げることから実践してみよう。どんなことも一人ひとりの自覚と行動がスタートだ。

「六ヶ所再処理工場」に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワークとは、いのちと食べもの、自然環境を生産者とともに守るために、六ヶ所再処理工場の中止を求めて2007年に発足した。これまで署名活動、メッセージカードやマグネットシートの作成、頒布、集会やパレードなどに取り組み運動を続けてきた。

共同購入ワーカーズの挑戦

ずっとワーカーとして働きたい



中身の詰まった保冷箱を軽々とトラックに積み込む。間違いがないかチェックして、配達の前準備を整える。配達前の緊張感が漂う



代表 佐藤さん

ワーカーズ・コレクティブ(以下、ワーカーズ)は組合員の新しい働き方として、グリーンコープの中で豊かに育ち各単協の中に定着してきた。グリーンコープ生協においたには4つの配送センターに共同購入の配送を担っている共同購入ワーカーズがある。2008年、それらを統合し「ワーカーズ・コレクティブ クローバー」を設立した。別府センターの業務を担う「クローバー別府」取材して代表の佐藤恵子さんに話を聞いた。

個別配送からはじまって

別府センターにワーカーズが誕生したのは2001年。6人で個別業務の委託を受けた。個別の増加にもないワーカーの人数も増えていった。

当時、別府センターの配送はパート・アルバイト職員とワーカーズが担っていた。同じコースを個別と班配が別々に動くのは配送効率が悪いと考えたワーカーズは業務と相談し、2003年に班配をおいた理事事会から受託。配送のパート職員もすべてワーカーズに加入し、個別・ペア配・班配を混載して配達コースを効率よく組み替えていった。



配食サービスの昼食と夕食の弁当の準備作業はほとんど午前中に集中する

結果、別府センターの配送業務のほとんどを担うまでに成長した。

2004年には別府ステーション(キープ)・物流(倉庫内軽作業)・帳合の業務を受託した。しかし、内容や時間帯の違う業務を把握する必要に迫られたため、おのずとワーカーズが管理業務を受託し、業務を総合的に担っていくようになった。現在別府センターの組合員への配送のうち、約9割はワーカーズが受け持っている。

猛暑の中、配達を終え、注文書のチェックをしているワーカーに話を聞いた。「赤ちゃんすくすく個別配」の時、配達の人がとても感じよくて自分も配達をやりたいなと思いました。組合員さんと話すのが大好きで「2年前からリスのマークのトラックに乗りたくて、やっと入れました。手探り状態で頑張ってます」と屈指ない。

配食サービスへの挑戦

「高齢の組合員から、もう料理もできないから生協を止めると言われたのが残念」とワーカーから声があった。佐藤さんたちは、安心・安全なグリーンコープ

の食材を食べ続けてもらえる方法はないかと考えた。同時に、年齢的に配送の仕事ができなくなった後の、ワーカーの仕事を作りたいとの思いも募っていた。それが配食サービス事業へとつながっていく。

別府センターにある厨房は、元々配食サービスを想定して作られたものだった。そこを使って2005年、高齢者にお弁当を作った。配食サービスの独自の事業に踏み出した。7個の弁当からはじめ、現在は別府市の「高齢者配食サービス」の委託を受けるまでに

なった。一日100食を超える弁当を4人の専任のワーカーが作っている。配達したワーカーが伝える利用者の「おいしかった」「ありがとう」の声が、作っているワーカーの意欲につながる。

ワーカーズの未来を作る

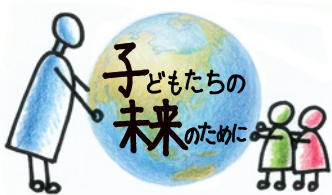
配食サービスをはじめたことから、新たにグリーンコープの4店舗のお弁当と惣菜の製造を担うことになった。はじめたばかりで手探り状態。経営的にも赤字だ。「ふくおかの水巻店に行つて、弁当作りを見てきました。効率的な人の動線や物の配置を見て、私たちがもつ

とやれると確信しました」と佐藤さん。惣菜や弁当の試作に取り組み、売り上げアップを図っている。そのことは店舗ワーカーズの利益にもつながっていく。

佐藤さんは「おいただいたの理事会に出るようになって、組合員の単協開発商品への強い思いを知りました。それをワーカーに伝えることが供給アップにつながっていくと思います」。空き時間にグリーンコープへの加入呼びかけ(拡大)に取り組みたいという配送ワーカーも現れた。配送の途中に、ベビーカーや子どもの自転車などを確認し、声を掛ける家に目星を付けて帰ってくるのだという。ワーカー一人ひとりの頑張りがセンターを支えている。

「ワーカーがいつまでも働き続けられる場所を作りたい」。クローバー別府は試行錯誤を重ねながらも挑戦していく。

※1共同購入の商品を預かり個別の引き取りに対応する
※2カタログと注文書など配布物をセットすること



No.27

将来に残る放射性廃棄物

原子力発電所(原発)が稼働すると必ず放射性廃棄物という核のゴミが出ます。放射性廃棄物は人間はもちろん、あらゆる動植物や環境への悪影響が指摘されていますが、現在でも無毒化する技術がありません。処理がかなり厄介で、ガラスで固め、地中深くに埋めてしまおうなどと計画されていますが、要は「臭いものにフタ」であって、将来的にその安全性が保障されているとは言い切れません。

下記参考文献によれば新聞報道として、多くの著名人が参画している政策提言グループ「地球環境イニシアティブ」の設立会見で以下のような話がされたと書かれています。「僕らは子どもたちに何を残していけるのか。今(電気を)使うため、1万年もなくなる放射性廃棄物を残すのは違うんじゃないか」。まさにその通りだと思いませんか!

子どもたちの未来のために、放射性廃棄物を出し続ける原発はいりません。私たち自身で大量の電気エネルギーを使う生活を変えていきましょう。

参考文献: 原発は地球にやさしいか 西尾 漢 著(緑風出版)

グリーンコープ共同体組織委員会

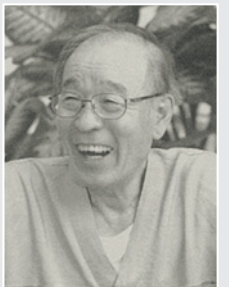
남림장 추도식



弔辞を読む共同体代表理事田中さん

社団法人ハンサリム名誉会長 朴才一さんを偲んで

8月19日、韓国の社団法人ハンサリムの朴名誉会長(享年72歳)の訃報が届きました。8月21日に行われた葬儀には、グリーンコープから共同体代表理事の田中裕子さんをはじめ6人が参列し、代表して田中さんが弔辞を述べました。



「互恵」と「共生」を实践され、日韓の架け橋であった朴会長 略歴 1994年、ハンサリム初代会長。2010年2月ハンサリム名誉会長就任。互恵のためのアジア民衆基金理事

1995年にはじまったハンサリムとグリーンコープとの関係は、さまざまな交流を通して深まっています。グリーンコープの平和の取り組みである「ピョンファ・エ・ダリ(平和の橋)韓国への旅」もその一つです。「こういつた実際にその地域に暮らしている生活者同士の連帯が真の連帯を築いていくはずだ」と、朴会長はこの取り組みについて話されています。

2001年には、平和学習会で「日韓の相互理解を深めよう。歴史を越え連帯するために」というテーマで、グリーンコープの組合員に直接語っていただきました。「人は一人では暮らしていけません。互いに『互恵』の精神を持って、他人

との競争関係ではなく、お互いを支えあう関係へとつなげましょう」「人と人との関係、自然との関係においても共生しながらやっていくことが大切だと思います。共有できる価値観を持って連帯していけば、大きなうねりとなるでしょう」と熱く語られています。

最近では、2009年に韓国で行われた「互恵のためのアジア民衆基金」の設立総会に向けて、ハンサリム生協の基金への参画にご尽力されました。「すぐれない体調をおして、やさしい笑顔で迎えていただきました」と、その際の朴会長のお人柄を偲びつつ、これまでの感謝を込めて田中さんは弔辞をしめくりました。

投稿募集

私の好きなグリーンコープ商品

400字程度
毎月末

住所氏名・年齢・TEL・所属生協を明記し郵送またはFAX、Eメールでお送りください。掲載分には図書カード(500円分)進呈。

住所・氏名などの組合員の個人情報、本紙に掲載の場合のみ使用します。

※事務所移転にともない住所が変わりました。〒812-8561 福岡市博多区博多駅前1丁目5-1

グリーンコープネットワークセンター(福岡) 宛
「共生の時代」編集部 宛
FAX 092-481-7876
Eメールアドレス
rikoh@greencoop.or.jp

いま地域を考える

No.206

どんな説教より一緒に食べることが大切

根っこがない



ふきのとうでは食材や水にも気を配り、定期的に天然水を汲みに出かける。同行して森林浴を楽しむC君

子どもたちを癒す「食」

澤田さんたちは、まず彼らの心の空洞を食で満たすことからはじめた。児童養護施設の給食は家庭の食事とは異なる。親から500円玉1個を食事代として渡されてきた子もいた。街をさ迷い食事に事欠いていた子は、入居した日に1升の米をたいたげた。せいたくはできないが精一杯の食卓を整え、心ゆくまで食べさせる。

「生見捨てない」

ふきのとうにはごくごく普通の家の温かみが漂う。「おじちゃん」「おばちゃん」とよばれる澤田さん夫妻に、今春から非常勤職員として永崎大志さんが参加。加えて週末は大分大学の学生もボランティアで手伝いに来る。子どもたちはこの大家族の中で自立のためのノウハウ・食事作り、掃除・洗濯などの家事、金銭管理、人とのコミュニケーションのとり方などをそれぞれのペースで学んでいく。

それは「生きたい」と願う子どもたちと「生きて欲しい」と願うスタッフの格闘の日々となる。だから澤田さんは「ここがあなたの『家』なのだ。私たちは家族なのだ」と繰り返し繰り返して伝える。ふきのとうの名の由来も話す。ふきのとうは長く辛い冬を耐え、春一番に顔を出す。そのように頑張ってほしいと。ふきのとうは2009年度グリーンコープ生協おおいの「地域福祉訪問」の一つになった。その見学記は「こんな境遇の子どもたちも自立援助ホームのことも知らなかった。ふきのとうは子どもたちの抱擁館だ！と思った」で結ばれている。支援の広がりはこちらからだ。

※社会性・興味・コミュニケーションについて特異性が認められる広汎性発達障害

養育放棄を含めた子どもの虐待数は、厚生労働省が統計を取りはじめた1990年から増加の一途をたどっています。虐待を受けた子どもの心の傷は簡単には癒えず、それを引きずり自立に手間取るケースが多いのが現実です。

そうした子どもたちが社会で真に自立を果たすまでを手助けしようと、澤田正一・加代さん（グリーンコープ生協おおいの組合員）夫妻は、2004年、大分市東部の住宅街に「自立援助ホーム ふきのとう」を立ち上げました。

NPO 法人 青少年の自立を支える青空の会 自立援助ホーム ふきのとう

子どもが親元で育つことが適切でないと思なされる、18歳まで乳児院・児童養護施設で養育される場合が多い。しかし高校に進学しない場合は、15歳で施設から出なければならず、高校を中退した場合も同様だ。子どもたちはたまたま生活の基盤を失う。

正一さんがホーム長、加代さんが寮母の里親型だ。現在は十代の男女5人を預かっている。これまで10人がここから巣立っていった。築20年の木造2階建ての学生下宿を購入してスタート。正一さんはそれまで児童養護施設の職員をしていたが、そこを出た子どもたちの窮状を見かね、「捨てて置けない」と設立を決意した。正一さん自身も児童養護施設で育ち、だからこそ子どもたちの何の後ろ盾もない不安は分かりすぎるくらい分かった。

ここにはたどりついた子どもたちもそれぞれ辛い養育歴を背負っている。A君は4歳のとき父親から遊園地に行こうと誘われ、大喜びして出かけたが、着いたところは児童養護施設。以来「捨てられた」という思いをずっと抱え苦しんでいる。B君は育児放棄により生後数カ月で施設に入った。軽度の知的障がいがある。不安になると今でも夜中にゴロンゴロンと壁に打ち付けている。今春20歳になり、勤務先の待遇も正社員となったため、ふきのとうを出たが、食事だけはふきのとうでとっている。C君は4歳から児童養護施設で暮らしてきた。アスペルガー症候群を持つが、ずっと見過ごされ、「問題児」として厳しく扱われてきた。

彼らに共通項を見つけたら、「根っこがない」と澤田さんはいふ。親から一心に注がれる愛は子どもが育つ基盤となる。彼らはそれを持てないまま育った。

フードマイレージ 2010年8月までに組合員の利用によってたまったのは 59,121,820.1 pOCO CO2に換算して5,912トンを削減したことになります

アジア民衆基金 2010年8月までに組合員の利用によってたまったのは 11,209,054円



澤田さん夫妻



緑溢れるふきのとうエントランス



夕食の準備を手伝う子どもたち

「問題児」として厳しく扱われてきた。そのような彼らに共通項を見つけたら、「根っこがない」と澤田さんはいふ。親から一心に注がれる愛は子どもが育つ基盤となる。彼らはそれを持てないまま育った。

2010年8月の組合員数 402142人 (8/26現在)
2010年7月分
リユースリサイクルデータ
放射能汚染測定結果報告(202) 2010年7月

Table with 6 columns: 検体名, 産地, セシウム134, セシウム137, 合計ベクレル/kg. Rows include 鶏卵, 鶏肉, 蜂蜜, カレー粉 from various regions like 熊本, 福岡, 山口, 中国, インド.